

Book Review

プロフェッショナル ワークバランス ハイジニストワークでつまづかないための 78の秘訣

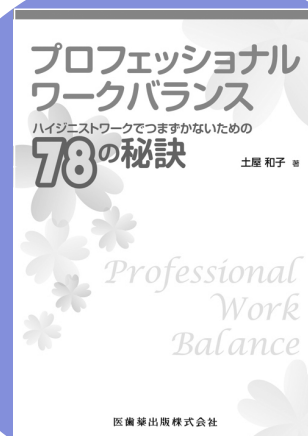
土屋和子 著



Reviewer

木原敏裕 Toshihiro Kihara
(奈良県・木原歯科医院)

A5判, 172頁
定価(本体 3,000円+税)
医歯薬出版刊



「それは和子さんだからできたので
しょう、私には無理だと思います」

という文章から始まるこの本は、書
き手の思いを伝えたい、というよりも
歯科衛生士として仕事をしている人た
ちが日常的に感じる悩みをどのように
捉えればいいのか、という読み手側の
立場での組み立てがなされている。

通常、このような本は著者の経験に
もとづいて「わかる人にはわかるが経
験のない人にはわからない」というも
のが多いが、本書は歯科衛生士になっ
て1~2年目、3~4目、5年目以上と
いう、歯科衛生士としてのキャリアを
歩む人が必ず通る成長過程に応じて具
体的なポイントをあげ、実際の医院の
なかでどのようにすればうまくいくの
か、という考え方を示してくれている。

さまざまな事例に対して「ADVICE」
を行い「STEP UPのためのHINT」を
その都度提示し、架空の理想像ではな
く現実のなかでどのように考えるの
か、というところを教えてくれるのが
この本のミソである。

本書では特に「COLUMN」として
28項目があげられているが、これは
仕事について直接考えるのではなく、

俯瞰的に自分を見つめ直すために書か
れた、非常に参考になる項目であると
思われる。

「失敗はない」/「自分のことは自分でわ
かっている?」/「1万時間の法則に学
ぶ」/「辞職の理由」/「経営者の想いVS
スタッフの想い、の根本的な違い」/
「ネガティブな言動にも深い意味があ
る」/「離職率が高い理由」

など、28のCOLUMNのなかで私も「そ
の通りだな!」と思ったものはたくさ
ん出てくる。読者に対してどのように
違った角度からものごとを見ればいい
のか、という具体例をよくぞここまで
集めたものだと感心させられた。

本書はもちろん歯科衛生士向けに書
かれたものではあるが、できれば歯科
医師にも読んでいただきたい。

歯科医師は医院のなかでは院長ある
いは勤務医として患者さんに対して気
を遣いながら細心の注意を払っている
と思われるが、一方で毎日一緒に働い
ている歯科衛生士やアシスタント、受
付などについては誰がどのように考え
て何を悩んでいるのか、ということ考
えたことはあるだろうか?

歯科医療はチームプレーである。一
人の優秀な歯科医師がいても、それを
フォローしてくれるスタッフがいないけ
れば仕事として成り立つものではない。
おそらく、歯科医師が人生のなか
で一番多くの時間を費やすのは自分の
医院のなかであると思われる。その環
境が素晴らしければ素晴らしいほど、
そこに関わっている人の毎日の生活も
楽しく積極的になるはずである。

どこの歯科医院でも歯科衛生士が足
りないといわれる昨今、足りなくなっ
ている理由はどこにあるのか、という
ことも考えなければいけない時代に
なってきたと思われる。卒業したての
歯科衛生士が夢を持って仕事を頑張ろ
うと思っているのに、歯科医師がその
成長を止めてしまうようなことになっ
てはいないだろうか。

歯科医師と歯科衛生士、アシスタン
ト、受付などを含めたすべてのスタッ
フが前向きに考えることにより歯科医
院が患者にとってもスタッフにとつ
ても居心地の良い場所になると考える。
本書は必ず多くの歯科医療関係者の参
考になると思うので、一読をお願いし
たいと思う。